

2014 年度事業報告・決算報告

はじめに

2014 年度の事業計画で情勢の特徴を以下のように位置づけました。

小選挙区制という民意を反映しない選挙制度によって、有権者のわずか 2 割程度の支持にもかかわらず衆議院選挙、参議院選挙で大量の議席を獲得した安倍政権は、特定秘密保護法強行採決をはじめ集団的自衛権の行使容認、軍備増強と次々と「戦争を積極的にする国」へと突き進み、「慰安婦問題で強制連行はなかった」などに象徴される歴史の偽造や靖国神社公式参拝など極端なナショナリズムはアジアはじめ国際社会の中で孤立の道を歩んでいる。

また、先の戦争で県民の 4 人に 1 人が犠牲になり、銃剣とブルドーザーで土地を奪われ、今尚、米軍基地が押しつけられている沖縄において、強引に辺野古への米軍基地建設を強行しようとする等、暴走を続けている。

今通常国会での憲法解釈変更をめぐる答弁で「政府の最高責任者は私だ。政府の答弁について私が責任をもって、その上で選挙で審判を受ける」と強調した安倍首相に対し、自民党幹部からも批判続出「首相の発言は選挙で勝てば憲法を拡大解釈できることになる」等と非難せざるを得ないほど、極めて危険な動きとなっている。

一方、原発のない日本へ、TPP 参加反対、秘密保護法反対、アメリカ・財界いなり政治の転換、消費税増税反対などを求めて、立場の違いを超えてかつてない幅広い人びとが声を上げ、安倍政権そのものの暴走を許さない大きな共同の輪が広がっている。

2014 年度は、社会の変化に能動的に対応し、平和憲法を守り、社会保障と税の大改悪、介護・保育・障がい児に関わる制度改悪阻止等への闘いを進めるために奮闘する。

まさにこの 1 年は、「激変・激突」の情勢＜歴史的後退の可能性も、劇的な前進の可能性をも秘めた時代＞（2015 年度事業計画を参照）、さらに 5 月 14 日に安倍内閣が「戦争法案」を閣議決定し、今国会成立に執念を見せ、戦後日本の大転換をはかろうとしています。

私たちは、平和憲法を守ることを柱に、介護・保育・障害の各分野で、厳しい情勢と「闘い」ながら、「利用者・子どもの立場に立った」事業の維持・発展に努めました。

2014 年度は下記を重点事項に据えて取り組んできました。

- ①新規事業への挑戦 パーチェ梅小路の開設、吉祥院保育所の移管準備
- ②介護事業 老人保健施設西の京の展開、ケアステーション虹の家の管理者交代・事業所の移転
- ③利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供 各事業共通
- ④制度にない福祉サービスの展開 制度の狭間にあるニーズに焦点をあて、それに応える福祉サービスの提供
- ⑤各事業所の予算達成 法人全体として収入比 1.7%の利益確保をめざす。
- ⑥幹部職員の配置と育成、労働条件の整備
- ⑦社会保障制度を守り発展させる活動等

これらの取り組みの詳細は、各事業所の報告を参照頂き、「2014 年度事業・決算」の概要を以下の通り報告します。

1. 2014 年度の決算概要

事業活動のサービス活動収益は 13 億 1,350 万円となり、前年対比でみれば 2,553 万円（前年比 101.98%）の増収となりました。事業毎では、介護事業 2,157 万円（前年比 103.04%）の増収、保育事業▲200 万円（前年比 99.60%）の減収、障がい児通所支援事業 961 万円（前年比 113.00%）の増収となりました。

老健西の京の 2,313 万円（前年比 104.29%）の増収、洛西保育園の 1,278 万円（前年比 106.11%）の増収、新規事業のパーチェ梅小路の収入 1,439 万円が増収となっていますが、その他の事業（7 事業所）は軒並み減収となっています。

当期活動増減差額は、三事業分野とも黒字となり、法人合計で 2,863 万円（収益比 2.2%）の予算を上回る黒字とな

りました。

資金収支は、▲512万円の赤字となりました。「退職共済会」加入の職員以外の退職給付引当金に見合う退職給付引当資産の積立が出来てなく、関係職員の退職金約3,800万円の資金支出が、赤字の大きな要因となっています。次年度から計画的に退職給付費引当資産の積立を行い、改善をはかる必要があります。

100万円以上の投資は、西の京の車両3台購入(約615万円)、あらぐさ保育園の隣地購入(約3,074万円)で、固定資産取得支出の合計は4,758万円となり、設備資金借入金返済4,198万円等を、事業活動資金収支差額7,634万円等で対応しました。

総資産は、25億1,472万円で前年度より▲1,186万円の減少となっています。

流動資産は、事業活動収支の結果と主に固定資産取得による変化で2,276万円の増加となっています。

固定資産は、土地・設備等の増加、積立金の増減、減価償却の差引で▲3,462万円の減少となっています。

負債は、8億250万円で前期より▲2,839万円の減少となっています。

今期新たな借入金はありません。固定負債の長期借入金返済は予定通り4,198万円の返済をおこなっています。

純資産は、当期活動収支差額2,863万円の黒字、国庫補助金の償却減等の結果、1,648万円の増加で、17億1,221万円となりました。

<貸借対照表>

単位：万円

法人合算	2014年度	前期差額	2013年度	前期差額	2012年度
総資産	251,472	△1,186	252,658	△3,792	256,451
流動資産	67,135	2,276	64,859	△1,641	66,501
固定資産等	184,337	△3,462	187,799	△2,151	189,950
負債	80,250	△2,834	83,085	△4,393	87,479
流動負債	16,584	2,786	13,797	152	13,645
固定負債	63,666	△5,621	69,288	△4,546	73,834
純資産	171,221	1,648	169,568	600	168,972
次期繰越活動差額	73,328	5,063	68,264	645	67,618
内当期活動差額	2,863	586	2,276	△1,164	3,441

<事業活動計算書 事業別 前年対比>

単位：万円

	合計	本部会計	介護事業計	保育事業計	障がい児事業計
2014年度 収益計	131,350	0	73,079	49,955	8,314
2013年度 収益計	128,796	364	70,922	50,156	7,353
収益計 前年差額	2,553	364	2,157	▲200	961
前年比率	101.98%	%	103.04%	99.60%	113.08%
2014年度 費用計	130,074	2,444	72,005	48,050	7,526
2013年度 費用計	126,862	2,339	70,852	47,405	6,265
費用計 前年差額	3,150	105	1,154	632	1,260
前年比率	102.48%	104.49%	101.63%	101.34%	120.12%
2014年度 当期増減差額	2,863	88	42	24,052	327
2013年度 当期増減差額	2,276	734	▲1,922	2,847	616
当期前年差額 前年差額	587	▲645	19,644	▲442	▲288
前年比率	128.48%	12.04%	%	84.87%	53.17%

2. 各分野の事業報告と決算状況

(1) 保育園分野

保育事業に係る特徴は、「青い空保育園」の開設（京都市吉祥院保育所の移管）にむけた準備と2015年度からはじまる保育新制度の対応でした。

「青い空保育園」の開設にむけて、10月～1名（主任予定者）、1月～6名（クラス責任予定者、調理担当予定者）、園長予定者（白い鳩保育園園長兼務）の配置を行いました。予定者として配置された職員は、京都市公立保育所の保育の継続と各保育園で培ってきた保育との調整等に時間をかけて丁寧に対応し、移管に向けた準備を進めてきました。

予定者を送り出した各保育園は、常勤職員の臨時採用、非常勤職員・派遣職員の採用で保育体制の補完をはかりました。保育新制度は、入所条件（保育必要度）の数値化によって保護者の希望の入所が出来ない事態が起こる等、国の対応の遅れと京都市の対応（新制度の理解と疑義等）から、年度末直前になり、新制度に係る書類整備・保護者への説明、保護者との保育時間の確認等、煩雑な業務におわれました。

保育運営の特徴は、年度当初の各園の状況は、白い鳩保育園128名（定員+8）、洛西保育園152名（定員+32）、あらぐさ保育園は55名（定員+10）となり、前年に引き続き各園定員を超えた状況でスタートしました。

各園の延べ園児数は、白い鳩保育園1,593名（一ヶ月平均133名 前年比96.4%）、洛西保育園1,867名（一ヶ月平均156名 前年比102.3%）、あらぐさ保育園677名（一ヶ月平均57名 前年比97.6%）となりました。

白い鳩保育園は、次年度の園長交代と「青い空保育園」開設にむけた職員異動に伴い、1月から園長代理の任命、2名の常勤職員の採用等を行いました。非常勤職員がなかなか見つからず、派遣職員の採用で対応しました。

子ども会（生活発表会）では、「当日は恥ずかしさや緊張もあったが持ち場の工夫もしながら取り組み」年長の保護者から「我が子の姿だけではなく友だちの姿やクラス全体の変化が嬉しかった」という感想を頂きました。園創立60周年の記念誌を作成しました。12月にノロ感染、12月後半からインフルエンザの感染が広がりました。

洛西保育園は、昨年に続き園舎が広がったことを生かし、定員外の入園児を積極的に受け入れ、過去最高となる159名の園児を受け入れています。「青い空保育園」開設にむけた職員異動に伴い、常勤1名の採用と非常勤職員で対応しました。4月に園庭が完成し、蝶やてんとう虫等が今まで以上に来たり、ゆすら梅等の木の実がなり身近に自然が感じられるようになりました。2度にわたっての頭シラミの感染、12月にインフルエンザの感染が広がりました。

あらぐさ保育園は、職員体制で常勤職員の休職（出産・育児・病気）が3名あった事、「青い空保育園」開設に向けた1月からの職員の異動も含め、職員体制は厳しく非常勤職員等でなんとか体制を整えました。運動会の競技内容で、職員出し物を止め、親子競技多くしたり、祖父母競技を取り入れたりと変更を行いました。重大な事故等があり、あらためて保育における安全等について深め、対応をはかりました。隣家より土地購入のお話を頂き、事業所単独では財政的に難しかったが、今後の展開を考え、法人として購入の判断を行った。

単位：万円

保育園	科目	13年度実績	構成比	14年度実績	構成比	前年比
白い鳩保育園	サービス活動収益	18,764	100.0%	17,481	100.0%	93.2%
	サービス活動費用	18,570	99.0%	18,033	103.1%	97.1%
	人件費	15,754	84.0%	15,346	87.8%	97.4%
	事業費	1,544	8.2%	1,445	8.3%	93.6%
	事務費	755	4.0%	782	4.5%	103.0%
	サービス活動増減差額	194	1.0%	△ 552	-3.1%	-282.5%
	経常増減差額	310	1.7%	546	3.1%	177.4%
	当期活動増減差額	11	0.1%	138	0.8%	1290.9%
洛西保育園	サービス活動収益	20,915	100.0%	22,193	100.0%	106.1%
	サービス活動費用	18,454	88.2%	19,379	87.3%	105.0%
	人件費	15,233	72.8%	16,181	72.9%	106.2%
	事業費	1,815	8.7%	1,768	8.0%	97.4%

	事務費	740	3.5%	742	3.3%	99.7%
	サービス活動増減差額	2,461	11.8%	2,814	12.7%	114.5%
	経常増減差額	3,101	14.8%	3,225	14.5%	104.1%
	当期活動増減差額	2,540	12.1%	2,588	11.7%	102.0%
あらぐさ保育園	サービス活動収益	10,475	100.0%	10,280	100.0%	98.1%
	サービス活動費用	10,380	99.1%	10,636	103.5%	102.4%
	人件費	8,715	83.2%	8,759	85.2%	100.5%
	事業費	905	8.6%	922	9.0%	101.9%
	事務費	534	5.1%	701	6.8%	130.7%
	サービス活動増減差額	95	0.9%	△ 356	-3.4%	-371.6%
	経常増減差額	200	1.9%	△ 141	-1.3%	-69.0%
	当期活動増減差額	295	2.8%	△ 321	-3.1%	-107.8%
合計	サービス活動収益	50,154	100.0%	49,955	100.0%	99.6%
	サービス活動費用	47,404	94.5%	48,050	96.2%	101.3%
	人件費	39,702	79.2%	40,287	80.6%	101.5%
	事業費	4,264	8.5%	4,136	8.3%	97.0%
	事務費	2,029	4.0%	2,226	4.4%	109.2%
	サービス活動増減差額	2,750	5.5%	1,905	3.8%	69.7%
	経常増減差額	3,611	7.2%	3,630	7.3%	100.8%
	当期活動増減差額	2,846	5.7%	2,405	4.8%	84.9%

決算の特徴では、サービス活動収益は、白い鳩保育園前年比 93.2%、洛西保育園 106.1%、あらぐさ保育園 98.1%となり、全体で▲200万円の減収となりました。

当期活動収支差額は、白い鳩保育園（138万円の黒字、但しサービス活動増減差額は▲546万円の赤字）、洛西保育園（収入増等で2,588万円の黒字、前年比 102.0%）、あらぐさ保育園（▲321万円の赤字、実質3年連続の赤字）となりました。

（2）障がい児通所支援事業

今年度は、パーチェ梅小路の開設に力を注ぎながらも、「待たないですぐに療育を受けられる施設に」の施設目標を掲げ、早期療育に取り組んできました。

利用者状況は、パーチェ 3,171名/年間（1日あたり 10.9名 前年比 93.8%）、第二パーチェ 2,764名/年間（1日あたり 9.5名 前年比 91.8%）となりました。登録児童数は、パーチェは 66名、第二パーチェは 67名、パーチェ梅小路 35名となっています。2015年度から京都市でも「相談支援事業」が推進され、これまで児童発達相談所が果たしてきた行政としての役割が変化してきている。当面一つの「相談支援事業所」を立ち上げるために研修の参加等、準備を進めてきました。

年度末に、京都市の発達検査が6ヶ月待ちという状態が続き、2015年度4月の入所児童が上がってこない状況となっています。

単位：万円

	科目	2014年度	構成比	2013年度	前年比
パーチェ	サービス活動収益	3,663	100.0%	3,887	94.2%
	サービス活動費用	3,284	89.6%	3,338	98.4%
	人件費	2,494	68.1%	2,635	94.6%
	事業費	67	1.8%	68	98.5%
	事務費	685	18.7%	611	112.1%

	サービス活動増減差額	379	10.4%	548	69.3%
	経常増減差額	382	10.4%	550	69.5%
	当期活動増減差額	148	4.0%	310	47.7%
第二パーチェ	サービス活動収益	3,211	100.0%	3,465	92.7%
	サービス活動費用	2,834	88.3%	2,926	96.9%
	人件費	2,031	63.3%	2,214	91.7%
	事業費	72	2.2%	72	100.0%
	事務費	682	21.2%	595	114.5%
	サービス活動増減差額	376	11.7%	539	69.8%
	経常増減差額	385	10.5%	545	70.6%
	当期活動増減差額	187	5.9%	305	61.6%
パーチェ梅小路	サービス活動収益	1,439	44.8%	0	
	サービス活動費用	1,407	43.8%	0	
	人件費	967	30.1%	0	
	事業費	123	3.8%	0	
	事務費	315	9.8%	0	
	サービス活動増減差額	32	1.0%	0	
	経常増減差額	32	0.9%	0	
	当期活動増減差額	△ 8	-0.2%	0	
合算	サービス活動収益	8,314	100.0%	7,352	113.1%
	サービス活動費用	7,526	90.5%	6,264	120.1%
	人件費	5,493	66.1%	4,849	113.3%
	事業費	263	3.2%	140	187.9%
	事務費	1,682	20.2%	1,206	139.5%
	サービス活動増減差額	788	9.5%	1,087	72.6%
	経常増減差額	799	21.8%	1,095	73.1%
	当期活動増減差額	327	3.9%	615	53.2%

決算の特徴は、サービス活動収益で、パーチェは前年比 94.2%、第二パーチェは前年比 92.7%となりましたが、パーチェ梅小路の収益を加えると、合計で前年比 113.1%（961 万円の増収）となりました。

当期活動増減差額は、パーチェ 148 万円、第二パーチェ 187 万円の黒字、パーチェ梅小路は昨年に頂いた京都コムファからの寄付金を当て▲8 万円の赤字に留まりました。

(3) 介護事業

①特養都和のはな

施設理念の「みんなの笑顔があふれる、地域みんなと多くの出会い、みんなの成長大切に」を大切にした、ユニットならではの運営、様々な行事等の取り組みを進めてきました。

特養の入居者は、20 名の満室で、稼働率は 96.1%（予算 98.0%）となりました。延べ入院数は 12 名で入院日数は 228 日、4 名が亡くなられ次の入居者が入居されるまでに 49 日（昨年は 3 名で 61 日間）の空白期間を要しました。

職員の欠員を埋めることが難しく（数名の派遣導入を行ったが結果的に定着できなかった）、施設長が欠員分の勤務に入らざるを得ない状況が続いています。

単位：万円

特養	14年度実績	収入比	13年度実績	前年比
収益合計	9,697	100.0%	9,780	99.2%
人件費	6,860	70.7%	6,752	101.6%
事業費	1,259	13.0%	1,291	97.5%
事務費	824	8.5%	791	103.9%
費用合計	9,751	100.5%	9,642	101.1%
サービス活動増減差額	△ 53	-0.5%	137	-37.2%
経常増減差額	△ 127	-1.3%	62	-201.6%
当期活動増減差額	△ 179	-1.8%	△ 39	451.3%

決算の特徴は、当期活動増減差額で▲179万円の赤字となりました。

開設からの連続赤字で、繰越活動増減差額は▲2,684万円となり、厳しい状態が続いています。

②グループホーム都和のはな

グループホームの入居者は、9名の満室ですが、稼働率は95.1%（目標97%）となりました。入院者は2名・5回・134日となりました。一人の方がホームに帰り、看取り介護を行いました。

介護量の増加等に伴い、短時間パートの導入や日常業務の見直しをはかり、日勤帯は2人以上の職員がいるようにしました。

単位：万円

グループホーム	14年度実績	収入比	13年度実績	前年比
収益合計	4,488	46.3%	4,522	99.2%
人件費	3,253	33.5%	3,022	107.6%
事業費	605	6.2%	547	110.6%
事務費	342	3.5%	334	101.8%
費用合計	4,447	45.8%	4,151	107.1%
サービス活動増減差額	40	0.4%	371	11.3%
経常増減差額	9	0.1%	337	3.3%
当期活動増減差額	△ 50	-0.5%	277	-17.3%

決算の特徴は、当期活動増減差額で▲50万円の赤字となりました。

昨年までの2年連続黒字を継続する事が出来ませんでした。入居者の要介護度は2.33から3.55に、平均年齢は88歳から91歳になっています。10月に開催した家族懇談会で、ホームの体制の厳しさが話題になり、以後のご家族の来所・面会が増え、食事介助などへの協力を頂いています。

③ケアステーション虹の家

訪問介護、居宅支援事業の管理者が交代をしました。また、前管理者から借用していた事務所（家）から12月に新事務所に移転しました。

訪問介護等の件数は月平均で47.1名と前年比94.5%の減、居宅支援の件数は、59.5名/月となり、前年から大幅増となっています。

単位：万円

虹の家	14年度実績	収入比	13年度実績	前年比
収益合計	2,669	100.0%	2,708	98.6%
人件費	2,135	80.0%	2,554	83.6%

事業費	56	2.1%	56	100.0%
事務費	328	12.2%	152	214.5%
費用合計	2,522	94.5%	2,762	91.3%
サービス活動増減差額	146	5.5%	△ 53	-279.2%
経常増減差額	137	5.2%	△ 53	-262.3%
当期活動増減差額	113	4.3%	△ 51	-225.5%

決算の特徴は、サービス活動収益計で、前年比 98.6%▲39 万円の減収となりましたが、人員構成の変化による人件費の削減が大きく、事務所移転に伴う費用の発生も吸収し、当期活動増減差額は 113 万円の黒字となりました。

④老健西の京

利用者状況は、長期入所者 32,270 名（前年比 101.2%）、ショート入所者 1,672 名（前年比 111.72%）、入所の稼働は 94.9%となりました。在宅復帰率は 47%となっています。「西の京対策委員会」の答申、それを受けての西の京での役割を中心とした経営協議、相談室・入所の連携の中でのベットの運用等、これまでの後退から貴重な前進の芽がはじまっています。5月から在宅療養・在宅復帰支援加算の算定をはじめました。

通所は、一日当たり 31.3 名と予算目標 34 名に届かず、前年比は 96.0%と減少しました。居宅介護支援数は、71.3 名/月平均と目標の 70 名を達成し、前年比 102.1%と伸ばしています。

単位：万円

西の京	2014 年度	構成比	2013 年度	前年比
収益合計	56,224	100.0%	53,911	104.3%
人件費	37,757	67.2%	37,196	101.5%
事業費	7,962	14.2%	7,806	102.0%
事務費	7,044	12.5%	6,855	102.2%
費用合計	55,331	98.3%	54,300	101.8%
サービス活動増減差額	893	1.7%	△ 388	-240.7%
経常増減差額	939	1.7%	△ 545	-179.8%
当期活動増減差額	157	0.4%	△ 2,113	-9.4%

決算の特徴は、前年の大幅赤字解消のための様々な取り組みが一定の成果を生みました。事務員 1 名の削減を皮切りに、それぞれの分野でこれまで以上に利用者の確保等に努力をした結果が表れています。

事業収益は、前年比 104.3%（2,313 万円の増）、事業費用は、前年比 101.8%（1,031 万円の増）に留まり、当期活動増減差額は 157 万円の貴重な黒字となりました。

3. 法人運営

①理事会の出席率は 100%（前年度 100.0%）、評議員会は 92.6%（前年度 81.6%）となりました。

毎月定期に法人事務局会議（常務理事・介護事業部長・保育事業部長・障がい児通所支援事業管理者で構成）を開催し、各分野の推進と課題の対応、稟議決済、労働組合の対応、管理運営の向上等に努めてきました。

②各分野で介護事業部会議、園長会議等を開催し、事業分野ごとの運営の向上を図りました。

介護事業部は、各事業所報告と課題対応、クレームの報告・対応、介護職員等の求人、年間総括会議の合同開催（特養・老健・グループホーム）、教育・研修の具体化、各種委員会の取り組み・分担、労働組合対応等を進めました。

保育事業部は、「青い空保育園」開設の準備、各保育園の事業報告と課題の対応、クレームの報告・対応、採用面接、新制度への対応、合同主任会議・給食委員会の定期開催、合同研修会の開催、労働組合対応等を進めました。

障がい児通所支援事業は、パーチェ梅小路開設の準備、各事業所報告と課題対応、クレームの報告・対応、労働組合対応

等を進めました。

③各分野から中長期計画の方針化を進める上で、以下のような課題の提起を受けました。

＜保育分野＞

子ども子育て新制度に対する政策化及び対応

制度・経営状況に見あう賃金の具体化

南部の保育事業の展開（あらかさ保育園と青い空保育園の連携・事業拡大）

白い鳩保育園の施設拡大

今後の京都市市営保育所の民間移管に対する対応

＜介護分野＞

地域包括ケアの具体化…「認知症カフェ」（都和のはな施設）の開催

老健西の京の大規模改修

＜障がい児分野＞

障がい児相談支援事業の開設

新たな児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業の開設

パーチェ・第二パーチェの施設の在り方の検討（賃貸 20 年契約）

④今期行われた行政の監査指導は以下の通りです。

保育園…三ヶ園とも文書指摘無し

4. 積立金と利益処分の提案

（1）保育園の積立金の提案

決算において、洛西保育園は、「修繕費積立金」を以下のように行います。

①当期資金収支差額＋各種積立金／事業活動収入（決算額） 5%以内 超えた場合は収支分析計算書の作成

②当期末支払資金残高／運営費収入 30%以下

① $(30,904,729 \text{ 円} + 0 \text{ 円}) / 226,418,357 \text{ 円} = 13.6\%$ …収支分析計算書の作成

② $75,643,920 \text{ 円} / 162,374,650 \text{ 円} = 46.6\%$

30% は $48,712,395 \text{ 円}$ $75,643,920 \text{ 円} - 48,712,395 \text{ 円} = 26,931,525 \text{ 円}$ 以上の積み立てが必要
よって、27,000,000 円の積立（修繕積立 27,000,000 円）を行う。

単位：円

事業所		修繕積立	人件費積立	合計
洛西保育園	2014 年度	27,000,000	0	27,000,000
積み立て合計		52,000,000	12,000,000	64,000,000

（2）利益処分の提案

今期利益処分として、以下の金額を次年度に繰り越します。

単位：円

	法人合算
今期繰越活動増減差額	28,634,936
今年度積立金取崩	22,000,000
今年度積立金	▲ 27,000,000
当期繰越額	23,634,936

あらかさ 22,000,000 円
(土地購入の資金として)

以上